

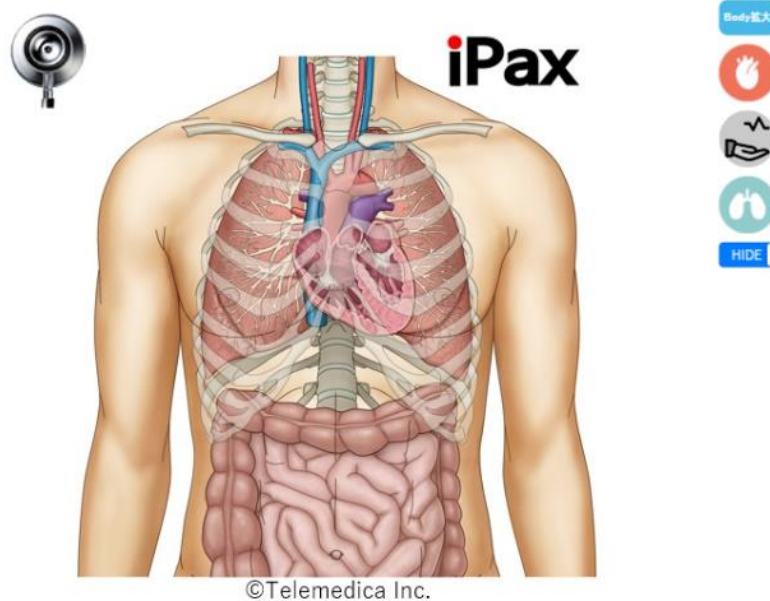
## iPax7つの特徴



ChatGPT@HeyGen合成映像

### 1. いつでもどこでも聴診が学べる

画面上に表示される「聴診器アイコン」を「胸部イラスト上」に移動させることで聴診がシミュレートでき、解剖学的部位に対応する臓器のリアルな音を聴くことができます。

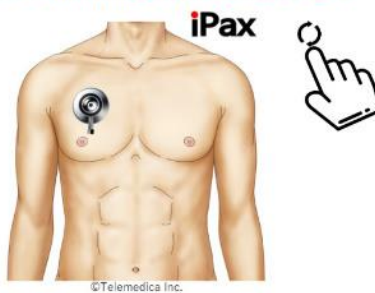


## 2. 豊富な症例ライブラリ

診断学、フィジカル教育に必要な基本的な症例に加え、BSLに活用できる実症例から記録された心疾患や肺疾患の豊富な症例を公開しています。また、世界的にもめずらしい新生児の聴診音も揃えており、先天性心疾患、血管腫や、生後1分、3分、5分の心音や肺音の経時的変化を記録した聴診音源もあります。症例数はmp3、iPax、クイズ問題合計で300症例以上掲載しています。

[Case list ダウンロード](#) [ダウンロード](#)

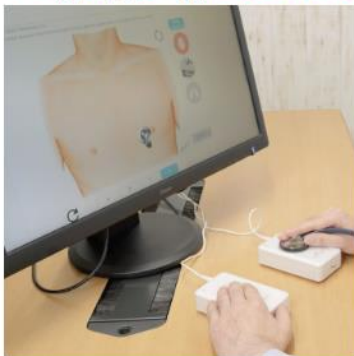
## 3. 前胸部も背部も聴診できる



ワンクリック。画面に示された「円形の矢印」をクリックすると胸部から背部に切り替わり、背部の聴診が可能です。

[動画で詳しく見る](#)

## 4. 脈の触診（脈をとりながら心臓聴診）



専用スピーカーkikuzoを接続すると、脈を取りながら心音聴診することが可能です。血圧測定についても同様に「触診法」の演習が可能です。

[動画で詳しく見る](#)

## 5. クイズ

聴診スキルをテストするためのクイズ・Exam機能が搭載されています。様々なケースシナリオを提示し、心音や肺音を聴いて質問に答える方式で聴診のスキルアップをはかります。レントゲンや心電図など、他の検査と合わせたクイズを作成することもできます。

[動画で詳しく見る](#)

[クイズ見本はこちら](#)

(パソコン、イヤホンをご利用ください)

## 6. Web、PPT、QRやLMS (iframe) で利用できる

さまざまな利用パターンに対応するために、Webオンライン利用のほか、PowerPointやQRコード、iframeでの利用※を可能にしています。教育者は聴診症例をプレゼンテーションに組み込むことができ、QRコードで症例を配布することもできます。また、moodleなどの「LMS」の中でも利用可能で、現在利用中の学習システムの中にiPaxを埋め込むことができます。これらの機能を組み合わせて使うことにより、より質の高い教育が可能になります。

※iPaxをPPTやQRなどで配布した場合、各学生は各自ログインしてiPaxを使用します。学生がライセンスを購入していない場合はiPaxは利用できません。

[動画で詳しく見る](#)

[PPTダウンロードはこちら](#)

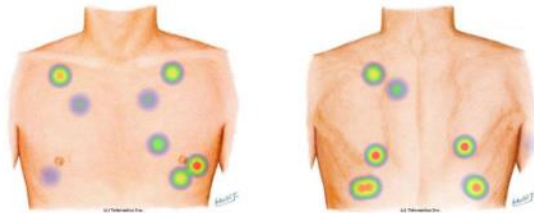
QRコード（正常心音スケルトン）



[iframe構文はこちら](#)

## 7. 管理機能

学生の利用履歴を管理する機能があり、どの学生が、どのコンテンツを、どれくらいの時間利用したのかが随時記録されています。ログ情報は管理画面からいつでも閲覧することができます。



さらに、世界初の「聴診部位記録機能」を搭載しています（特許申請中）。学生が聴診した部位を記録するとともに聴診時間を「色の濃さ」で明示します。教えと学びの両方に、有益なフィードバックを提供します。

ログ・聴診部位の説明動画

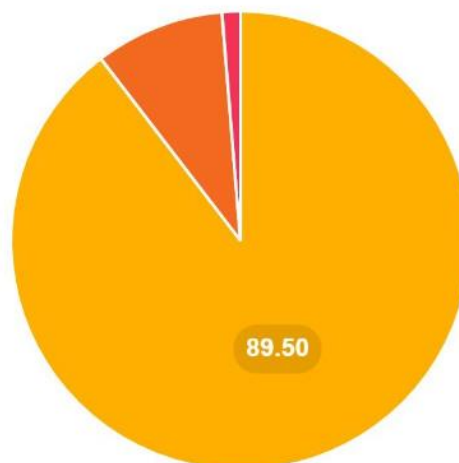
ライブモニタリングの説明動画

### \*iPax/聴くゾウ体験者のアンケート

iPaxと聴くゾウを体験していただいた医師にアンケートを実施しました。多くの医師がiPaxの音の質感と聴診操作のリアルさに満足し、再び利用したいと回答しました。

#### 再利用意向

■ 利用してみたい ■ どちらでもない ■ 利用はしない



動画で詳しく見る

---

**お問合せ**

株式会社テレメディカ  
email 3sp@telemedica.co.jp  
横浜市青葉区青葉台1-3-9

2024©Telemedica Inc.